

21世紀COEプログラム平成15年度採択拠点事後評価
 評価結果に対する意見申立て及び対応について

意見申立ての内容	意見申立てに対する対応
<p>【申立て箇所】 社会との関係の重視については、市民との対話ができる新しいタイプの原子力技術者の輩出に取り組み、地域市民フォーラムや地域フィールドワークへの参加、学内ではキャプテンシップ教育プログラムの実施など、<u>社会に対する責任と技術者としての生きがい</u>を形成するための努力を試みたが、なお一層の継続が望まれる。</p> <p>【意見及び理由】 社会との関係の重視については具体的な評価が書かれていない。なお、社会との関係に関する活動は、ここに記された活動に加えて、原子力と社会の共進化に関する研究や原子力の社会的責任（NSR）の実践的取組等広範囲に亘っていて、これらを組織的かつ有機的に組み合わせた研究と教育は原子力に関する専攻を持つ他大学にはないユニークで先見性のある教育研究活動である。これらの取り組みの評価を示した上でご判断いただきたい。</p>	<p>【対応】 以下の通り修正する。 社会との関係の重視については、市民との対話ができる新しいタイプの原子力技術者の輩出に取り組み、地域市民フォーラムや地域フィールドワークへの参加、学内ではキャプテンシップ教育プログラムの実施など、社会に対する責任と技術者としての生きがいを形成するための努力を試みたことは評価できるが、なお一層の継続が望まれる。</p> <p>【理由】 事業結果報告書に記載されている申立てにある内容を含めて評価した結果であり、社会に対する責任と技術者としての生きがいを形成するため、努力を試みたことは評価できることから、その趣旨が明確になるように修正した。</p>
<p>【申立て箇所】 今後は引き続き目標とする人材育成に向けた更なる努力を継続すると共に、<u>国内の原子力研究開発計画全般との整合性</u>について一層の留意が求められる。</p> <p>【意見及び理由】 国内の原子力研究開発計画は、民間によって推進されてきた軽水炉に関しては（最近の不祥事等はあるが）一応順調に経過している。しかしこの原子炉はいつまでも利用できる原子炉ではない。ところが世界の持続的発展に不可欠な、高速増殖炉、再処理、最終処分等日本国家が主導して進めてきた研究開発計画は順調に進展して</p>	<p>【対応】 以下の通り修正する。 今後は引き続き目標とする人材育成に向けた更なる努力を継続すると共に、国内の原子力研究開発計画全般との整合性について<u>なお一層の留意</u>が求められる。</p> <p>【理由】 事業結果報告書及び申立てにおいて、国内の原子力研究開発計画全般との整合性を具体的にどのように行っているかの記載はなく、また、今後の国内の原子力研究開発計画全般との整合性についてなお一層の留意を求めたものであることから、一部表現を修正した。</p>

<p>いるとは言い難い。このような状況を深く憂慮し、これらの問題を解決するために本COE計画は提案されたものであり、国内の原子力研究開発計画の一翼を担うと共に、世界の持続的発展を支える革新的原子力を世界の他の拠点とともに推進しようとしたものである。幸いこの動きは原子力先進国のみならず、開発途上国も含めた世界の多くの革新的原子力を推進する専門家や機関から歓迎され、報告したような成果を出すことができた。即ち、本COE拠点は<u>国内の原子力研究開発計画全般との整合性に十分留意しつつ、世界の革新的原子力研究の拠点として活動してきた</u>。これこそが産官学の学として、全体を見通し整合性のとれた原子力研究開発に寄与することになると考える。</p>	
---	--

21世紀COEプログラム委員会における事後評価結果

(総括評価)

設定された目的は概ね達成された

(コメント)

拠点形成計画の目的達成度については、概ね達成されたと評価できる。プログラム採択時「21世紀の社会に受け入れられる原子力利用を構想し、国際的にも活躍できる人材の育成」に力点を置くよう要請したが、研究内容の重点化、自由な発想と全体を見通す目を有した倫理に裏打ちされた国際的リーダーたり得る人材の育成面で一定の努力が認められる。

人材育成面については、博士課程入学者数、博士授与数の実績は評価できる。社会との関係の重視については、市民との対話ができる新しいタイプの原子力技術者の輩出に取り組み、地域市民フォーラムや地域フィールドワークへの参加、学内ではキャプテンシップ教育プログラムの実施など、社会に対する責任と技術者としての生きがいを形成するための努力を試みたことは評価できるが、なお一層の継続が望まれる。

研究活動面については、革新型原子炉概念の構築、核拡散抵抗性の強い革新的核変換システムの概念構築、高濃度水素製造システムの実証、要素技術としての革新的分離システムの実証や高コントラスト・高分解能X線イメージングシステムの開発等、当初の計画に沿った成果をあげた。

補助事業終了後の持続的展開については、COE活動の継続と一層の強化拡大のため平成18年1月1日「革新的原子力研究センター(CRINES)」が学内正式組織として設置され、翌月にはマサチューセッツ工科大学(MIT)の先進原子力研究センター(CANES)との研究協力覚書を締結し持続的展開の基盤が整いつつあり、今後の展開に期待する。

今後は引き続き目標とする人材育成に向けた更なる努力を継続すると共に、国内の原子力研究開発計画全般との整合性についてなお一層の留意が求められる。